

岩木川治水80周年によせて



岩木川上中流改修期成同盟会会長
弘前市長 金 澤 隆

大正7年に国の直轄事業として本格的に岩木川の治水事業が行われて以来、今年でちょうど80年の節目を迎えられ、心からお祝い申し上げます。

これまでの事業の足跡を顧みますと、十三湖水戸口の突堤建設は、冬季間に吹き荒れる日本海の風波がもたらす漂砂により河口が閉塞して毎年氾濫を繰り返していたものを、苦心惨憺の難工事の末に完成させた、国内はもちろん外国にも例のない特筆すべきものでした。また、流末処理と十三湖岸に土地造成を行う基礎工事としての圍繞堤の築造、あるいは、洪水調節や利水のための目屋ダムの完成、下流部から上流部に至る長大な築堤工事の一部完成など、災害の防止に大きな成果を上げております。

しかしながら岩木川は長年の改修の努力にも拘わらず、平成9年5月8日の大雨と融雪による増水氾濫に見られるように、現在もなお災害の危険性を内包しております。流域の住民は、直轄区間の築堤完了と、目屋ダムの機能を大幅に向上させた津軽ダムの完成を一日千秋の思いで待ち望んでおります。

洪水災害については市民の関心も高いことから、弘前市では、洪水災害時に住民自らが行動し、人的被害を最小限に食い止められるように、建設省のご協力を頂き、洪水ハザードマップを作成して毎戸配布をいたしました。災害時にはお役に立てていただければと願っております。

おわりに、幾多の困難を乗り越えて治水事業に邁進された、建設省をはじめ関係された先人諸兄のご苦勞とご努力に対して深く敬意を表するとともに、今後は、安心と親しみのある岩木川となりますことを心から期待して岩木川治水80周年によせての言葉といたします。